葛飾・堀切ラッキー通り
商店街でメロン栽培
「地域も育ってます」

商店街でメロンを栽培する試みで注目を集める葛飾区の堀切ラッキー通り商店街（岩崎修会長）のメロンが、今年も8月に収穫期を迎えた。梅雨が長く発育が心配されたが、約50人が育てた苗は、ほぼすべて実った。

30年前、全長300㍍のラッキー通りは、京成本線・堀切菖蒲園駅の南地区メインストリートだった。100店舗ほどでにぎわったが、駅寄りに川の手通りが通ったことで人の流れが変化。岩崎さんが商店街活動に加わった2008年頃には、既に会員は3分の1にまで減少していた。

街に活気を取り戻そう、話題づくりをしよう、と5年前に始めたのがメロン栽培だ。

初めは役員だけで活動したが、年々、苗の育成希望者が増え、今では地域住民も参加する。特に高齢者が熱心で、商店街の人との会話も増えたという。

さらには、メロンをモチーフにしたグッズを作ろうと、会員から自発的に案が出てくるように。商店街周辺の地図をメロンの網目模様に見立て、ガイドマップ、ポスター、チラシ、Tシャツと次々に形になった。デザインや制作は、地元業者が名乗りを上げ、格安で請け負ってくれた。

メロンを育てているうちに、人と人とのつながりやコミュニティも育っていた。

その背景には、岩崎さんが2017年に会長に就いてから着手した、商店街の組織改革もある。連絡会議を毎月1度は開き、報告・連絡・相談を徹底。役員に若手を積極登用し、若返りも図った。

後継者不足、空き店舗など課題はまだまだ残るが、岩崎さんは「メロンの網目のようなつながりを信じて頑張っている。人に自慢できる商店街にしたい、ラッキー通りに店を出したい、と言う若い人を増やしたい」と将来を見据えている。

メロンの網目模様に見立てた地図

会長の岩崎さん

通りには収穫後の鉢植えがあちこちに

小規模商店街もOK
コロナ対策に補助
東京都10月末まで　ガイドライン対応で

東京都は新たな支援策「感染拡大防止ガイドライン対応型商店街特別支援事業」の補助先を募集している。

この事業は都が定めるガイドラインに沿って安全安心な街づくりに取り組む商店街を支援するもの。

補助の対象となるのは①取り組みの周知に要するポスター・チラシなどの作成委託経費②サーモカメラやアクリル板等物品購入費③消毒液やマスク等の消耗品購入費④振り込みや代引きの手数料など――で、補助率は10分の9。上限は50万円。対象期間は9月1日から12月31日まで。

4月に募集した緊急対応型補助金では加盟店舗数が100以上という条件があったが、今回はそれがない。

募集要領及び申請書類等は都のホームページ（https://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.lg.jp/chushou/shoko/chiiki/miryoku/syoutengai-guideline/index.html）で確認。問い合わせは産業労働局（☎03・5320・4787）へ。

10月30日締め切り。

商店街大学からジャンプアップ

野方商店街（振）
第18期生 伊倉 功さん

次代にどうつなぐ

野方商店街（中野区）は、西武新宿線野方駅を中心に広がる五つの通りで構成されています。224会員が多方面に広がっていながら、業種の充実ぶりと歩き回れるコンパクトさが魅力です。

この街で私は2012年まで30年間、おもちゃ屋を営んでいました。現在はアパート経営ほか中野区シルバー人材センターの野方班長などを仕事としています。

親の介護をきっかけに店をやめましたが、青年部に入って以来ずっと商店街に関わっています。店を閉め組合を抜けた人もたくさん見てきましたが、お世話になった商店街に恩返ししたくて活動を続けています。

もう一つ私の重要な活動が消防団。1995年阪神大震災の時「もし身近で火事が起きたら」と思ったのが始まりです。

野方の場合、区画整理されていないので道路が狭く、右に左にうねり入り組んでいます。消防車が入りづらい所へ、いかに早く駆けつけ延焼を食い止めるかが大事です。

今まで活動してきて、あらためて自分の後ろを振り返ってみるとバトンタッチする人が居ない。いまや青年部も50～60代が多くなりました。

伝えたいことはたくさんあるのに、どうすれば若手と交流し、次世代につなげられるか。飲み会でも勉強会でもいいからもっと付き合いたい。深い悩みを持って商店街大学を受講しました。

現場学習では再開発された街、昭和の姿を残す街いろいろ見ましたが、東京の商店街は時代の狭間にあると感じます。野方は良いまま残っている方だとも感じます。

30年後を見通し、防災の街づくりに取り組むこと、そして若手や女性が活躍する商店街となることを望んでいます。

「大学から弓道を続けています。ホノルルマラソンにも挑戦したいです」

荒川・遊園地通り
人集めずイベント
リアルとバーチャル並行

インターネットで配信したオープニングセレモニー（左が山岸会長）

コロナ禍で盆踊りや祭りの中止が相次いだこの夏、荒川区の遊園地通り商興会（山岸一公会長）は、バーチャル（インターネット上の）企画と組み合わせる新たな試みで7月18・19日、イベントを実施した。

「西尾久の夏休み～初!!バーチャル&リアルのハイブリッドイベント」とは――。

専用サイトをつくり会長の店（食堂）からオープニングセレモニーやトークショー、音楽ライブなど生配信。

バーチャル商店街には会員の店やキッチンカーが出店。ストリートビューのように歩き回れ、弁当など買い物すると、西尾久地域限定でボランティアが配達してくれる。もちろん実店舗でもそれぞれ販売中だ。

地元企業シーキューブがサイト構築から撮影、配信まで全面協力したことで実現した。

リアル企画の目玉は、地元小学生50人を対象としたカブトムシの里親体験。当日特設会場にカブトムシのつがいを引き取りに来て自宅で1カ月、観察日記をつけてもらった。

2日間の実来場は約800人だが、事前予約制でばらけさせ1時間当たりは50人。手指消毒など対策も徹底した。一方のサイト視聴は約6000人と密をつくることなく開催でき、8月末現在、感染報告もないという。

山岸会長は「商興会の目標は『西尾久を元気に』。子どもたちには2020年夏の思い出を贈りたかった。今回中止にしても、いつなら大丈夫かも分からない。ならば覚悟を決め工夫する」と語る。

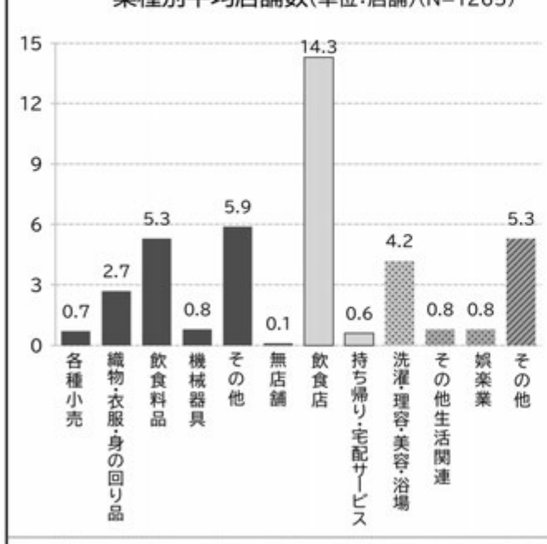
山岸さんが会長に就いた2016年当時、会員は8店舗で解散寸前だった。都電荒川線、あらかわ遊園など魅力的な資源がありながら人を引き寄せられないはずはないと、活性化に注力してきた。

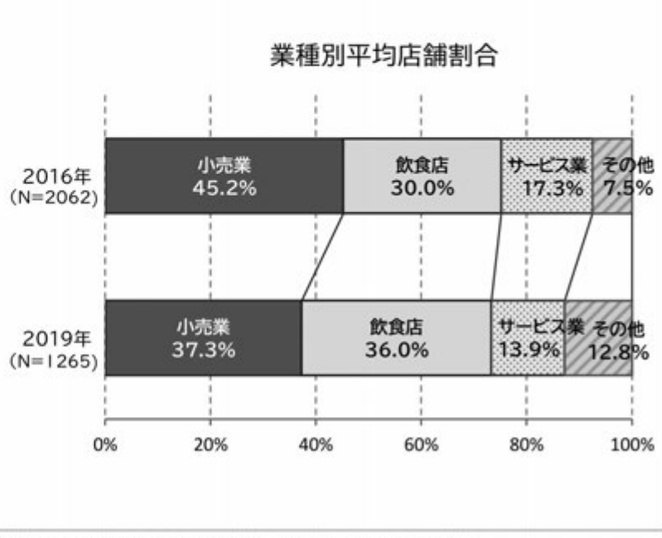
今も15会員と小さいが、文化発信したい若者など街の応援団ができ、昨秋のイベントは2日で1万5000人集まるほどに。そんな矢先のコロナ禍だがネット活用に手応えを得て、次は10月の第4回「すとりぃとふぇす」に生かすという。

2019（令和元）年度 東京都商店街実態調査　調査結果のポイント
連載 2

商店街数：2447件 / 回答回収数：1527件（回収率：74%）/ 期間：2019年10月～2020年3月

商店街の平均店舗数は45.9店舗。前回（2016年）調査時より2.7店舗減った。
業種別の平均店舗数では今回も「飲食店」が最も多く14.3店舗だった。





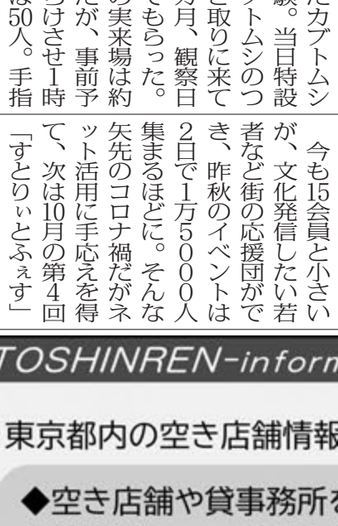
調査は商店街振興の基礎資料とするため都が1989年から3年ごとに実施しているものです

TOSHINREN-information

東京都内の空き店舗情報を取りまとめたポータルサイト『TOKYO商店街空き店舗ナビ』

◆空き店舗や貸事務所を「地域」「駅」「地図」の条件から検索できます
◆物件情報には近隣商店街名が表示されます
◆物件情報は大手不動産業者登録のものなので安心です
◆情報は最新版かつリアルタイムで把握できます

などなど、お役立ち機能アリなうえ、必要な情報満載です
ぜひご利用ください！



TOKYO 商店街空き店舗ナビ
ご存知ですかー?!

バナー掲示の協力商店街を
まだまだ募集中！
TOKYO商店街空き店舗ナビ

◀トップページ
コンテンツメニューがひと目でわかるシンプルレイアウト

◀商店街紹介ページ
空き店舗事業等を積極的に活動している商店街を紹介するシリーズ連載

◀物件情報ページ
アイコンが空き物件
物件情報には近隣商店街名も表示される

問い合わせ：東京都商店街振興組合連合会/03-3542-0231　URL：https://akitenpo.tokyo　スマートフォンはこちら▲